

通常の学級における

ユニバーサルデザインの視点による授業づくり

ユニバーサルデザインとは・・・

障害のある人の便利さ使いやすさという視点ではなく、障害の有無にかかわらず、全ての人にとって使いやすいようにはじめから意図してつくられた製品・情報・環境のデザインのこと

ロナルド・メイス(アメリカ)

ユニバーサル
デザイン

≠

バリアフリー

全ての子どもに対する
指導の工夫

障害のある子どもに対する
個別の配慮

ユニバーサルデザインの視点による授業づくりとは・・・

通常の学級の授業において特別支援教育の視点を生かした指導・支援の工夫を図ることにより、特別な教育的支援が必要な子どもだけではなく、全ての子どもにとって「分かる・できる」授業を構築することです。

H28 南の要覧 より

分かった！

できた！

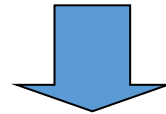
学びの充実感

うれしい！

楽しい！

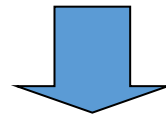
つまずきの想定

- ・授業中の立ち歩き
- ・集中が続かない



つまずきの原因を予想

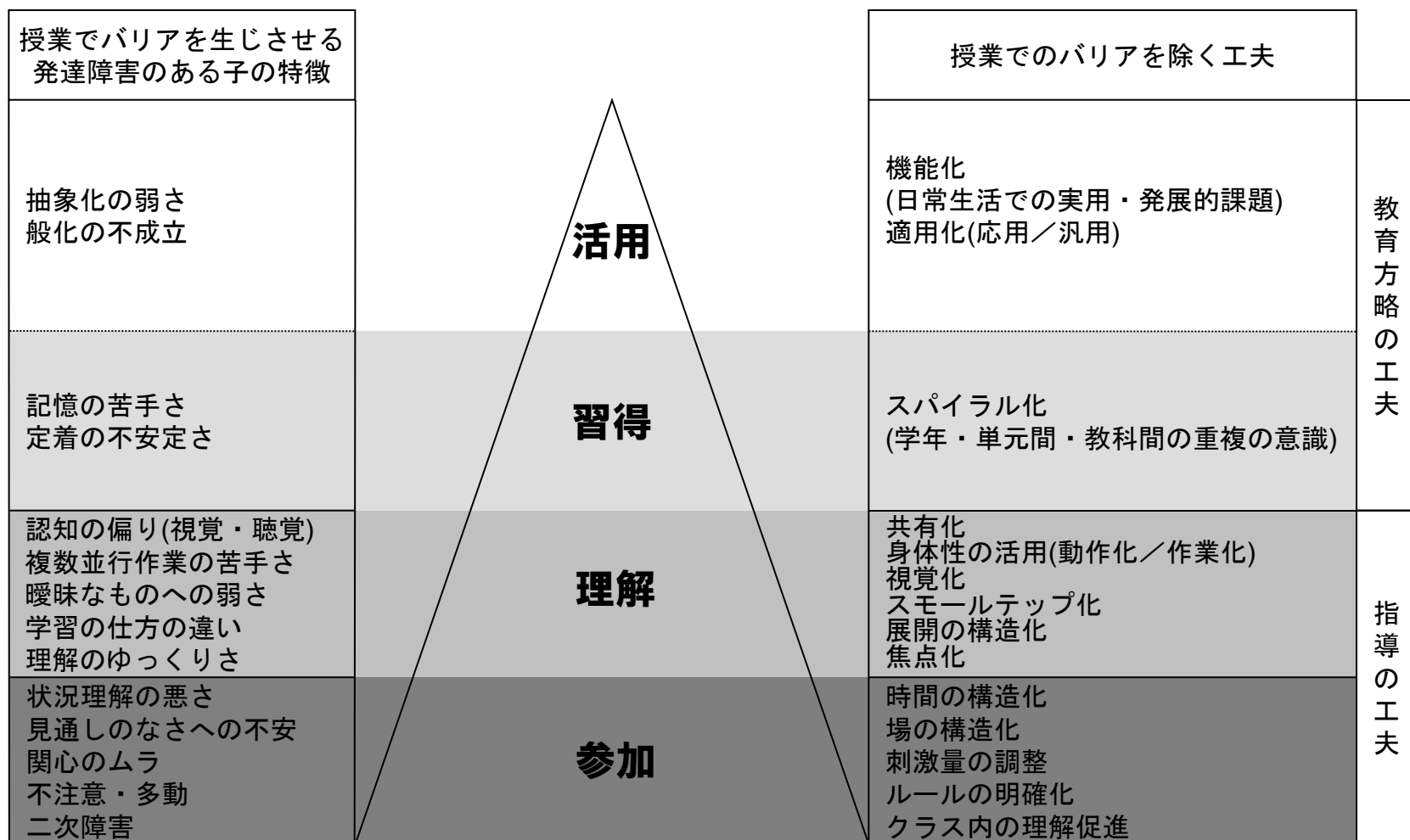
- ・状況理解の悪さ
- ・見通しのなさへの不安
- ・関心のムラ など



手だての工夫

- ・授業の流れをパターン化
- ・活動のゴールの提示
- ・刺激量の調整
- ・指示、発問の工夫 など

授業のUD化モデル(2012年度版)



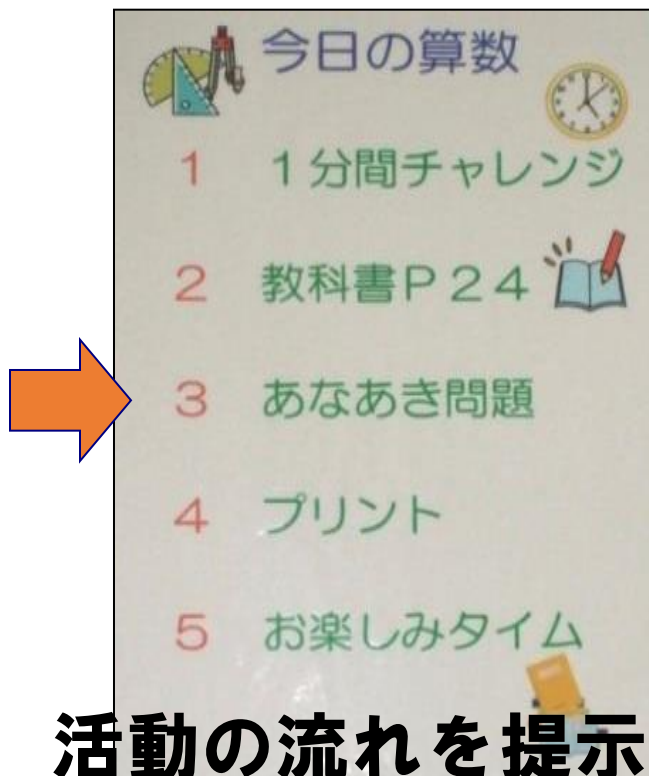
参加

- 1 時間の構造化
- 2 場の構造化
- 3 刺激量の調整
- 4 ルールの明確化
- 5 クラス内の理解促進

参加

1 時間の構造化

活動の順番や所要時間、終了時刻の事前提示



活動の流れを提示

活動の見通しがもてる



活動時間の提示

終わりの時間が分かる

参加

2 場の構造化

整理整頓、活動や動線を考慮した教材の配置



物の置き場所を決める

整理の仕方を教える

参加

3 刺激量の調整

光や音、室温への配慮、学習のねらいや活動に応じた教材の提示



掲示物を精選
教室環境をシンプルに



音への配慮

参加

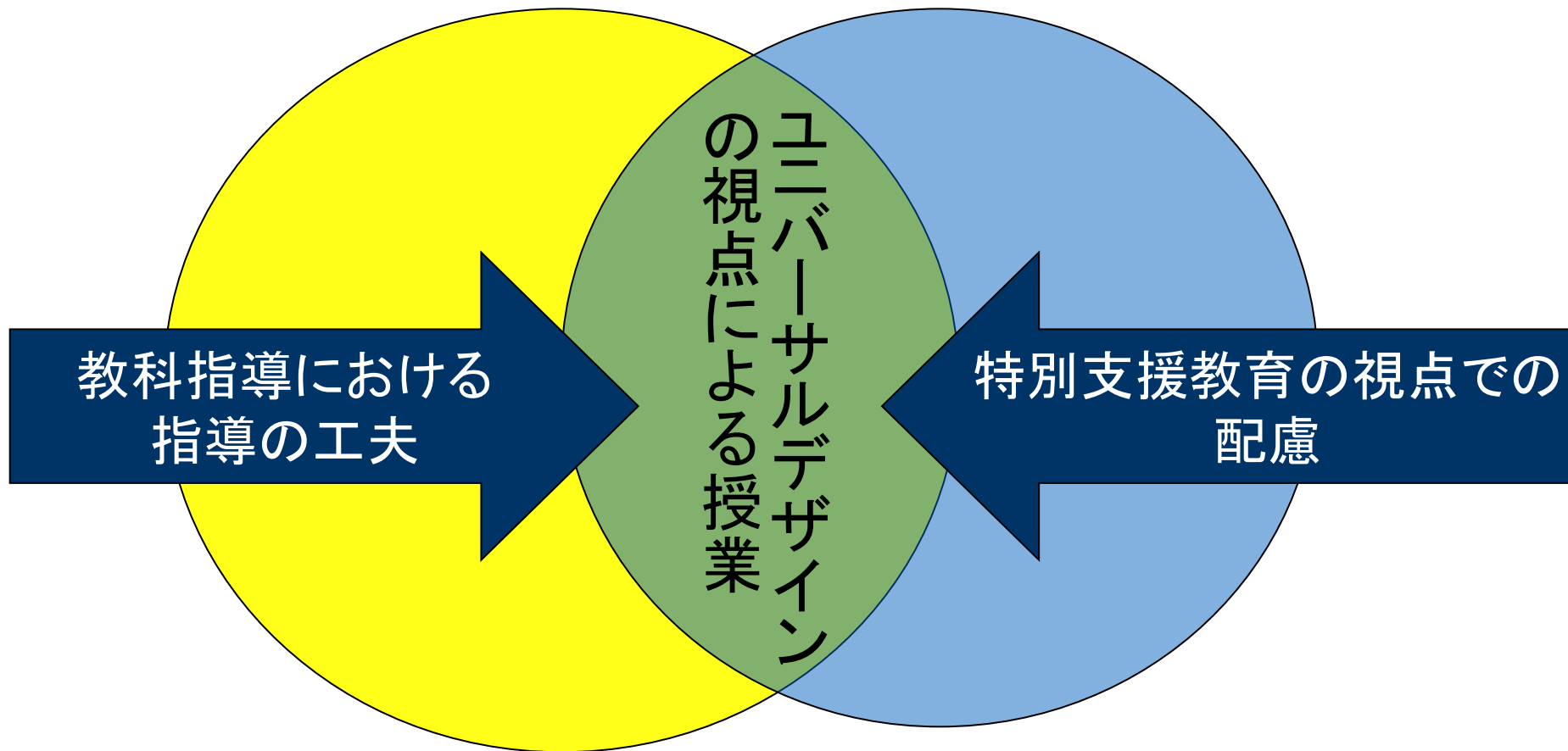
4 ルールの明確化

発言や聞く態度、ノートの書き方等のルールの明確化と共有

5 クラス内の理解促進

間違いや分からないことを受容し、お互いを認め合う関係づくり

「分かる」「できる」授業



理解

- 1 焦点化
- 2 展開の構造化
- 3 スモールステップ化
- 4 視覚化
- 5 身体性の活用(動作化・作業化)
- 6 共有化

理解

1 焦点化

学習のねらいや活動を絞り込む

2 展開の構造化

授業スタイルのパターン化 等

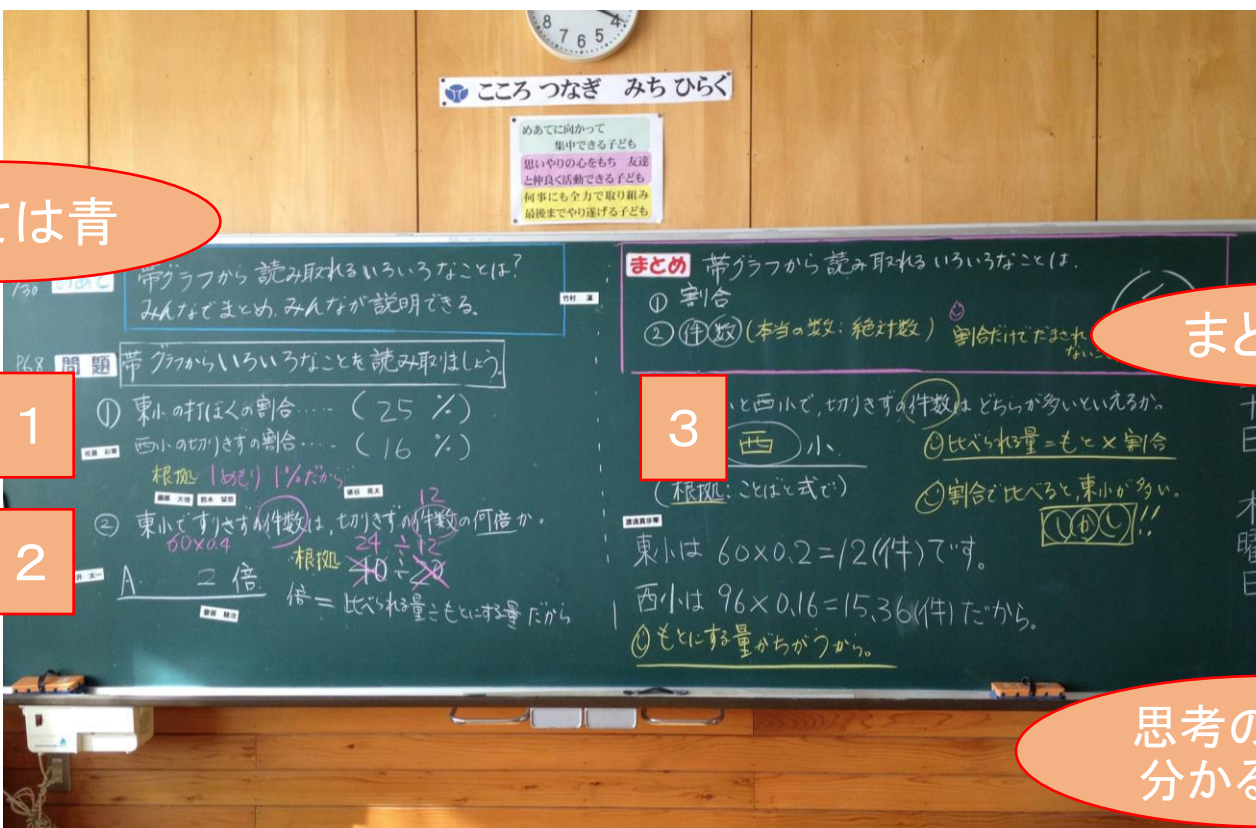
3 スモールステップ化

課題の難易度の調整(子どもの実態に応じて活用)

理解

4 視覚化 授業における情報を見えるようにする

めあては青



まとめは赤

思考の流れが分かる書き方

理解

5 身体性の活用(動作化・作業化)

話す、書く、操作する、作る等の活動をバランスよく設定

6 共有化

話し合う、伝え合う、協力し合う場面の設定

6 共有化



学び合い

伝え合い

話し合い

$$\begin{aligned} \text{式 } & \frac{2}{5} + 0.3 - \frac{2}{5} = \\ & \frac{4}{5} + 0.4 + 0.3 \\ & = 0.7 \left(\frac{7}{10} \right) \end{aligned}$$

分数を小数になおす

三段構えの指導



個に特化した
指導

多様な学び方の
受容

個別の配慮

さりげない支援

指導の工夫
(ユニバーサルデザインの視点による授業づくり)

ユニバーサルデザインの視点による工夫・配慮は

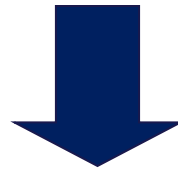
○障害のある子ども → 「なくては困る支援」

○障害のない子ども → 「あると便利な支援」

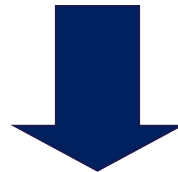
学級経営力 + 教科指導力

+ユニバーサルデザインの視点

どの子も「分かる」「できる」授業



子どもも教師も目が輝いている授業



一人一人の学びの充実感

～参考文献～

- ・平成28年度 南の要覧

秋田県教育庁南教育事務所

- ・秋田県特別支援教育校内支援体制

ガイドライン(三訂版)

秋田県教育委員会

- ・授業のユニバーサルデザイン入門

小貫悟・桂聖 東洋館出版社

- ・授業のユニバーサルデザイン Vol. 8

桂聖・日本授業UD学会 編著